

令和5年第4回（8月）瀬戸内市議会定例会

行政報告

本日は、令和5年第4回（8月）瀬戸内市議会定例会を招集しましたところ、ご多用の中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

8月15日に近畿地方を縦断した台風7号は、岡山県にも大きな被害をもたらしました。県北では、線状降水帯が発生し、大雨による橋の崩落や道路の崩壊等の被害が出ました。この台風により、被災された方には心よりお見舞いを申し上げます。本市においては、大きな被害はありませんでしたが、暴風・波浪警報が発表された15日早朝から幹部職員らで構成する災害対策注意体制をとり、推移を見守るとともに、避難所開設の準備を整えていました。結果的に避難所開設には至りませんでした。今後も空振りを恐れることなく、迅速な災害対応をしていきます。

梅雨明けから全国的に猛暑日が続き、気象庁は7月の平均気温が統計開始以降で最も高くなったと発表しました。この猛暑による熱中症患者の救急搬送は全国で日々1,500人を超える状況となっており、瀬戸内市においても8月15日までで42人の熱中症による救急搬送がありました。発生場所は、屋外20人、屋内22人となっており、特に屋内の発生は65歳

以上の高齢者が大半を占めています。このため、現在広報紙や防災アプリ等で、エアコンの利用やこまめな水分・塩分補給について周知を行っています。

国は熱中症対策を強化するため、今年5月に気候変動適応法を改正し、熱中症対策実行計画を策定しました。この計画では、具体的な施策として、熱中症警戒アラートによる情報提供や、高齢者やこども等の熱中症弱者に対する取組、学校現場における対策等が示されています。また、地方公共団体の役割として、庁内体制を整備し、主体的な熱中症対策を推進することとされており、本市においても来年度に向け、組織横断的な熱中症対策を検討していくこととしています。

今年4月こども基本法が施行され、こども施策をけん引する国の司令塔として、こども家庭庁が発足されました。本市では、こどもに関する取組・政策を社会の真ん中に据える「こどもまんなか社会」を実現するという、こども家庭庁の趣旨に賛同し、9月5日に「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行います。

本市では、これまで「子育て楽しむならせとうち」を進めるため、結婚新生活の支援、不育治療費助成、育児用品購入チケットの交付、18歳までの医療費の無償化、こどもひろばの開催等結婚から子育てまで、瀬戸内市独自の事業を実施しています。また、現在各地域の実情に応じた効果的な少子化対策を推進することを目的とした岡山県の「少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業」の実施団体として、現状分析、課題の整理を行っており、

この成果をもとに新年度の事業化を検討することとしています。

今後もこどもの視点でこどもの権利を保障するとともに、子育て世代が家庭や子育てに夢を持ち、子育ての喜びを実感できるまちづくりを進めていきます。

それでは、主な取組についてご報告させていただきます。

○ 外国人向け相談窓口の設置について

市内企業での外国人就労者は年々増加傾向にあり、本市には7月31日時点で632人の外国人が在住しています。

本市では、市内在住の外国人の相談ニーズに応えるために、瀬戸内市国際交流推進協議会と連携し、外国人向け相談窓口をダイバーシティ推進室に設置します。外国人が生活で困っていることや知りたいことがあるとき、情報提供や相談対応を行い、外国人を支援します。

相談窓口は9月1日から開設し、平日の午前9時から午後5時まで受け付けます。対応言語は、英語、フランス語です。対応できない言語はAI翻訳機などを活用します。

多文化共生社会の実現に向けて、外国人を地域社会の一員として受け入れ、日本人も外国人も暮らしやすい国際性豊かなまちづくりを進めていきます。

○ ゼロカーボン施策について

環境省の交付金を活用し、脱炭素社会の実現に向けた取組を進めています。6月から受付を開始した、一般家庭への太陽光発電設備や蓄電池、電気自動車等の導入に係る補助金交付申請の状況ですが、太陽光発電設備につきましては、100件の予定に対し、8月22日時点で84件の申請がありました。市民の方の関心度が高いと感じています。

また、公共施設では、消費電力使用量が一番多いクリーンセンターかもめの省エネ化を推進するため、46カ所の作業用水銀灯をLED化する関連予算を計上しています。

○ 観光振興について

7月から9月まで、岡山下でアフターデスティネーションキャンペーン「おかやま夏旅キャンペーン」が実施されています。

本市では、8月1日、映（ば）えるアートスポットとして、本市出身の芸術家、隠崎麗奈（かくれざき れいな）氏の立体作品を牛窓オリーブ園山頂に設置し、SNSを通じた魅力発信を行い、多くの観光客にお越しいただいています。また、観光客の観光スポットへの周遊を促進するため、市観光協会と連携したデジタルスタンプラリーを実施しています。

今後も新たなアートスポットを増やす取組を進め、アートスポットを中心とした地域を巡る企画や、SNS等による情報発信により本市の認知度

の向上を図ります。

○ 備前長船刀剣博物館、瀬戸内市立美術館について

備前長船刀剣博物館では、9月10日まで、戦乱の時代を表した刀剣を展示した特別展「戦乱と流行―南北朝時代の刀剣―」を開催しています。また、9月16日からは、特別展「赤羽刀とたどる戦後の刀剣史」を開催し、文化庁が所蔵する刀剣を中心に、世界に認められた日本刀の美術的価値について周知していきます。

また、11月25日から開催予定のテーマ展において、新収蔵品と共に国宝「山鳥毛」を展示する予定としています。

瀬戸内市立美術館では、10月15日まで、特別展「木下晋（きのしたすすむ）展―生への祈り―」を開催しています。木下晋氏は、鉛筆画家の第一人者と言われ、鉛筆の濃淡を駆使し、ハンセン病の回復者やパーキンソン病に苦しむ妻などをモデルに、病気や老い、孤独、生への祈り、希望、愛など、人間の内面世界を鉛筆画で表現しています。美術館では、これらの作品展示に加え、3階ギャラリーでハンセン病のパネル展を開催しているダイバーシティ推進室と連携することにより、ハンセン病やパーキンソン病などについても考える機会となる展示としています。

○ 全国学力調査について

4月に実施した全国学力調査結果が7月末に公表されました。

瀬戸内市の平均正答率は、小学校6年生は、国語が全国平均を上回ったものの、算数はやや下回る結果でした。中学校3年生は、3教科全て全国平均を上回り、特に数学と英語が大きく上回っています。ここ数年、全国平均を上回る結果が得られており、これまでの学力向上の取組が、実を結んでいるといえます。また、同一集団の経年比較においても、順調に学力をつけています。

○ 瀬戸内ブルーシャインズについて

7月22日、中四国女子硬式野球ルビー・リーグ公式戦が、邑久スポーツ公園野球場で開催されました。

厳しい暑さの中でしたが、応援に訪れた多くの市民が、選手たちに熱い声援を送り、瀬戸内ブルーシャインズは、対戦相手に7対0で勝利をおさめました。

現在、瀬戸内ブルーシャインズはルビー・リーグ3部リーグに所属しており、今シーズンの公式戦全10試合のうち8勝し、勝ち点32で同リーグ首位となっています。このまま首位でシーズンを終えることができれば、来シーズンの2部リーグへの昇格が決定します。また、一般社団法人全日本女子野球連盟による女子野球タウン認定については、9月に申請する予定です。

○ 竹田喜之助生誕１００年について

竹田喜之助生誕１００年を記念し、瀬戸内市立美術館では、１０月２４日から全国に点在する竹田喜之助氏の作成による人形約９０体を展示する「生誕１００年竹田喜之助展」を開催します。１１月１８日、１９日の喜之助人形劇フェスタでは、竹田喜之助氏にゆかりのある鈴木友子（すずきともこ）氏、「かわせみ座」、「糸あやつり人形劇団みのむし」や、長野県飯田市の人形劇団竹の子会らの公演が行われる予定です。

また、喜之助人形劇フェスタ実行委員会は、長年にわたり地域の文化芸術の振興に貢献したことにより、第２４回岡山芸術文化賞地域貢献賞を受賞しました。

さて、今議会で提案申し上げます案件は、人事１件、条例４件、補正予算８件、その他１４件、計２７件です。

よろしくご審議をいただき、適切にご決定をいただきますようお願い申し上げます。報告を終わらせていただきます。

令和５年８月３０日

瀬戸内市長 武久 顕也